

景観維持の広告表彰

彦根市 大賞は「たねや」の看板

味わいのある彦根市景観を維持する「景観サイン賞」の表彰式が、市役所で行われた。大賞は「たねや」の看板が選ばれた。市役所では、景観サイン賞の表彰式が行われた。大賞は「たねや」の看板が選ばれた。市役所では、景観サイン賞の表彰式が行われた。大賞は「たねや」の看板が選ばれた。

主君・秀吉いさめる三成描く

彦根市古沢町在住の歴史小説作家、矢的竜さん(70)が、豊臣秀吉の側近で地元、佐和山城主だった石田三成を主人公にした新作「三成最後の賭け」を新潮社から出版した。文禄・慶長の役(朝鮮出兵)を中心に、関ヶ原の合戦での三成の死までを描いた。矢的さんは「三成の生きざまは現代にも通じる」とアピールする。

(大橋貴史)

秀吉は朝鮮半島に兵を出し、明(当時の中国)までも手中に収めようとする。作品は、秀吉の政敵だった徳川家康が、出兵によって豊臣政権の国力や兵力の低下を図ろうと暗躍。動きを見抜いた三成は、主君の意にそぐなくとも出兵を止めようと画策する。

矢的さんは、関ヶ原まで続く面影の因縁の始まりが朝鮮出兵にあると仮説を立てた。通説で史実でないと言われる三成の出兵反対を「クセモノ」として描くことで、史料からは見えない新たな一面を浮き彫りにした。

矢的さんは京都府京丹波町出身。彦根市の滋賀大経済学部を卒業後の二〇〇一年、働いていた東京でリストに遭ったのを機に小説を書き始めた。文芸賞に作品を投稿するなど十年間の下積みを経て二一年にデビュー



生き方にヒント見い出して

三成最後の賭け 矢的竜 著

一、翌年、大学時代に過ごした彦根に移住した。「タチヤイなイメージもあり、ためらった」。彦根に来た当初は三成について書く気はなかった。考えが変わったのは二年前。趣味のハイキングで、三成が関ヶ原での敗戦後に捕らえられたとされる長浜市木之本町の洞窟に行き、三成に思いを寄せた。

洞窟の狭さに驚くと同時に自身の故郷を思い返した。京丹波町の洞窟で、冬眠中のコウモリをたき火にして起こした少年時代。自身の思い出を作品の冒頭で三成のエピソードとして描くことに執筆に取りかかった。

三成が秀吉の過激さをいさめようとした時のように、上司が間違っていると感じた時、部下はどんな対応をするべきか。四百年以上たっても同じ課題を抱える現在のサウナーマン社会。矢的さんは「読んだ人が三成の生き方にヒントを見い出してもらえたら」と続ける。

四六判、二百五十六頁。千八百三十六円(税込み)。全国の書店で購入できる。

世界遺産登録を目指す市は、屋外広告物に対する市民の意識を高め、美しい景観形成に取り組もうと、同賞を新設。市内から作品を募集した。三十二点の景観サイン賞の表彰式が、市役所で行われた。大賞は「たねや」の看板が選ばれた。

町中央公民館の愛称決定

二〇一九年四月のオープンに向け、多賀町久徳に建設中の町中央公民館の愛称が「多賀 結いの森」に決まった。多賀小学校二年の小島多喜さんの案。町は昨年十二月から一月まで愛称を募集。町民や町内に通勤する人などから二百三十八点が寄せられた。二月に町が候補作品六点を

を選定。小中学校や図書館、役場などに投票箱が置かれた。全四百九十八票のうち、小島さんの案は百二十五票を獲得した。町によると、小島さんは「木が集まる森のように入り、自然に集まる場所になってほしい」との意味を込めた。町担当者は「いろんな人を結びつける公民館にぴったりの愛称」と話した。(安江紗那子)

6月議会までに方針

市庁舎 彦根副市長が決意

新任の山田静男・彦根市副市長(参)が二日、市庁舎で市庁舎新築強化補強工事の真意を問う。山田副市長は「市民の信頼回復のため、六月議会までに方針を決め、全庁一致で取り組む」と決意を語った。

山田副市長は一九七七年に入庁。都市建設部長などを歴任し、定年退職後、彦根城管理事務所に再任用された。副市長の任期は一日から四年間。再任四人が委嘱された。

生活安全部の榎永正行部長は「若い力を十分に発揮し、立ち直りを支援するお兄さん、お姉さんになってほしい」と話した。



トイレ完成 観光客も快適に

彦根 高宮宿で落成式

お祝いの言葉を述べる大久保市長(左から二人目)＝彦根市高宮町で落成式

老朽化で取り壊された後、再建されていなかった。住民や高宮宿を訪れる観光客が利用できるように、高宮宿区連合自治会が市に要望して実現した。トイは木造平屋の延べ二九・七平方メートル。男性用、女性用と車いすなどで入れる多目的トイレがある。屋根瓦や格子窓、ちようちゃん風の照明など街並みの景観にも配慮した。式典では大橋和夫自治会長が「高宮宿のシンボルのようなトイレができた」と喜び、大久保市長も祝辞を述べた。(安江紗那子)

きれいな部室楽しみ

新・長浜北高 ペンキ塗り一新

長浜、長浜北の両高校が統合し、長浜高校(長浜市平井町)に開校する「新校・長浜北高校」の移転地で、継続して活用する運動部部室のリニューアル作業があった。部室は二階建ての長屋風平屋の九室。砂ぼこりで汚れた室内の壁にペンキを塗ろうと、学校が、施設の内装塗り替え支援キャンペーンに取り組み、県産塗料にペンキの提供などを依頼した。

商業会は「アトゲル」色の水性ペンキ百二十リットルを無償で提供。サッカー部やアメフト部の男子高校生十八人が商業会の技術指導を受けながら、はけを使って壁を塗った。二年生のサッカー部員、秋島泰孝さん(こ)は「きれいになって、うれしい。部活が楽しい」と話し、商業会の西山邦雄理事長(み)は「これを機に、塗料に親しんでもらえれば」と語った。(桑野隆)



清水 維斗ちゃん 二〇一九年4月2日生まれ

「NAGOYA COLOR」の「まいまいです!」私を思い出してください! BLOG (ブログ) 今どき女子の等身大ブログ 総勢20人